

第95回NEA運営委員会出席報告

平成9年10月21日
原子力局

1. 日時：平成9年10月9、10日（於：OECD本部（パリ））

2. 我が方出席者：佐竹日本原子力研究所理事
田口科技庁国際協力・保障措置課補佐
花木同調査員
小川OECD代表部一等書記官

3. 議事概要

（1）新事務局長からの報告

7月1日に就任したエチャベリ事務局長からの以下の報告があった。

- ①OECDの課題：NEAはエネルギーと環境問題に対する原子力の役割の分析に取り組む。
- ②OECDにおける原子力エネルギー：現状と将来NEA加盟国は原子力オプションを維持しているが、建設、維持コストにおいて、自由化市場で競争力を失いつつある。また、PAの問題も重要。
- ③NEAの将来：OECDの新しい活動の方向を良く見つつ、NEAの将来戦略をたて、加盟国に有益な成果を出していく。
- ④その他：米国立研究所との協力を検討中、エルパラダイIAEA次期事務局長と相互調整の必要性に合意、等。

（2）1998年予算

事務局が提示した予算案（対前年2.25%減）に対し、各国は、概ね賛意を示す一方、OECD本部へのオーバーヘッド・チャージ及びサポート・サービスの透明性の向上及び削減の必要性を主張した結果、事務局の予算案を承認するとともに、OECD本部に対する要請を議事録に盛り込むこととなった（今後OECD本部とNEA事務局との間でオーバーヘッドチャージ削減の議論が行われる）。

我が国及び英よりは、現在の削減が不十分であるとの認識を表明。

（3）OECD事務総長によるNEAの将来の役割に関する高級諮問委員会

ビルコーファ同委員会議長からの報告に対し、各国より概ね右報告を歓迎するとの意が表された。報告書が最終的にとりまとめられた後（11月末）、各国がこれを検討し、明年5月の運営委員会において、NEAとしての立場を決定することとなった。

(4) その他

①前回議事録の承認

韓国より、台湾から北朝鮮への放射性廃棄物の輸送に関する記述が議事録に盛り込まれたことについて謝意を表明。韓国は今後も加盟各国に対し本件に関する韓国の立場の支持を依頼する由。

②OECD内の他部門の活動

IEA事務局次長及び環境局長より各々の部局の活動について口頭で報告。IEAがNEAとの協力を柔軟な姿勢を見せたのに対し、環境局は加盟国間の意見の相違のため環境局で原子力を取り扱うのは困難である由。

③常設委員会からの活動報告

CNRA及びRWMC議長から、各々活動について報告があった。

④コストフリー・エキスパート及びトレーニーへのアプローチ

事務局のガイドラインが了承された。

⑤ポーランドとNEA

事務局より、ポーランドは長期の原子力開発に係る経験はあるが、発電所建設の計画は有していない等の報告があったが、正式な加盟申請がない現時点では、加盟の可否につき決定しない旨のコンセンサスが得られた。

⑥放射性廃棄物管理

熱化学データベース・プロジェクトの第2期計画が承認されるとともに、事務局より、米廃棄物隔離パイロット・プラント(WIPP)及びスウェーデン・プロジェクト(SITE-94)のピアレビューの終了について報告があった。

⑦放射線防護

国際原子力緊急時訓練(INNEX-2)の結果について報告があった。事務局長より、本件訓練は、マスコミも注目するものであり、NEAのvisibilityの向上につながる旨指摘があった。

⑧その他

次回運営委員会は、明年5月6-7日に開催されることとなった。

以上